

平成 25 年度宝塚さざんか福祉会事業報告

事業所の利用者の受け入れについては、平成 24 年 10 月に「かしの木工房 こはま」を開所しましたが、同事業所の利用は法人内事業所からの移動に限ったため、平成 25 年度末の利用者は、定員 40 名に対して 28 名にとどまりました。他方「宝塚さざんかの家」、「宝塚あしたば園」及び「宝塚めふプラザ」では、年度を通じて 3～6 名の定員超過が生じ、定員超過の解消は、引き続き次年度の課題となりました。

施設改修については、「宝塚あしたば園」の老朽化した門扉を全面的に改修し、あわせて防犯カメラを設置しました。このほか、建設後、相当年数を経た「宝塚さざんかの家」、「ワークプラザ宝塚」及び「いきいき宝夢」についても要修繕箇所の点検を行い、その結果、最も急を要する「宝塚さざんかの家」の外壁及びトイレ改修について県と協議を行った結果、平成 26 年度に補助対象工事として実施することが内定しました。

「かしの木工房 こはま」の開設までの作業場として使用してきました安倉南作業所は、平成 25 年度は各事業所共用の作業活動やレク活動のスペースとして利用してきましたが、平成 26 年度にバリアフ

リーの特性を活かして、「宝塚あしたば園」の比較的行動の穏やかな利用者の作業場とするため、更衣室・配膳室等の所要の改修工事を行いました。

ケアホームについては、2ホームの住居を安倉南地区に確保し、1月に男性用ホーム「安土夢」を開設しましたが、他の1ホームは職員の確保ができず年度内に開設することができませんでした。

職員の確保については、年度後半、毎月のように採用試験を行いました。例年に比べて応募者が極端に少なく、退職者の欠員補充要員を十分に確保することができませんでした。人材確保が今後の大きな課題となっています。

平成25年度は、「いきいき宝夢」で利用者の死亡事故が発生しました。ただちに、原因の究明と対策をとりましたが、私たちの支援の力の至らなさを深く反省し、再びこのような事故を起こさないため全事業所に事故防止担当者を置き、それぞれの事業所での事故防止活動を行うとともに事故防止担当者による事故防止委員会を設置し、事故防止マニュアル作成等の事故防止活動を行うこととしました。

経営計画（基本理念とビジョン）の策定については、年度当初に

全職員を対象に、理念への意見や想いをアンケートで募り、これを基に策定しましたが予想以上に時間を要し、理念実現のためのビジョン策定は平成 26 年度へ持ち越しました。

法人プロモーション DVD の作成については、後援会より制作経費の助成を受け、職員の手により完成しました。今後は、施設見学者への説明、特別支援学校生徒や保護者への説明、職員募集活動及び市民への啓発活動等に幅広く利用します。

宝塚市の委託事業である就労支援事業につきましては、全障害で対前年 13 名減の 24 名が就労し、うち 4 名が離職しました。知的障害に限れば、それぞれ 11 名と 2 名で、うち法人利用者については、4 名と 2 名でした。

相談支援事業については、相談実人数及び相談件数が、175 人から 362 人、576 件から 1,348 件へとそれぞれ 2 倍以上に増加しました。これは、平成 24 年度から始まった計画相談が増加の主な要因であり、相談内容も 45 パーセントが福祉サービスの利用でした。

財政面では、事業活動収支計算書にみるように福祉事業活動収支で 2,500 万円の差益が生じ、前年度比較で 3,550 万円の改善が図られました。これは、利用者増に伴う自立支援費収入の増が 5,880 万

円に対し、人件費の伸びが 3,280 万円にとどまったことが主な要因
です。